

四国、綾南町のとほたかか書いたものです。

松本先生は津島先生と比べても位階では先輩格の正三位であり、土木技術者の勅任技師として最高の地位にありました。

又松本先生が京都帝門大学土木科在学中時の伯爵後藤蓮平（一八五七—一九三九）

（寺内内閣でも内相・外相）

に京大でも成績優秀に目をつけられ

明治三十九年三月京大卒業と同時に台湾總督府に土木技師として招聘を受け、はなはくしい人生のスタートを切ったと言いう幸運な方でもあつた。其の後欧米視察の後米イリノイ大学に留学帰国後我が國初のコンクリート工法による近代的名基陸港を設計・施工して、世界の土木業界りを驚嘆させた。せました。

前述の様に勲一等を目前にして終戦を迎へ、台湾電力は無くなったか、直に帰国は許されず、乞はれて台湾電力会社の顧問として止り、昭和二十二年一月引揚げて來た。

昭和二十六年陶村長に就任いたし、ついで

昭和二十九年綾南町と言う合併町になり初代町長に就任いたし、けあした。当時正三位勲二等の村長町長等は外に削が無く多くな逸話が生まれたもので、自治省ととも全日町村長会長の選任に當つては形式的に綾南町長に先づお伺ひも立てなければと言ふことなど、今でも自治省内で語り草になつてゐる。そうです。

又県下の町村長会合の会合でも来賓の知事か先づ

松本虎太先生に先づ挨拶して登壇するとか。

全口所村長会議では局長を始め担当大臣が先づ
私本先生に挨拶をする筈。変った現象が話題に

なりました。

又人生に於てもユニークな性格であったと言ふ、先生の五十年前
時代には夏目漱石に英語を習ったと言ふ。戦時中
は米内光政・山本五十六両等と親交があり、先生の
面目躍如たるものを感じます。

以上色々申しました。結局私達は外部からその人物
像を指摘されて知るのではなく、地元我々の先輩を
誇りとしてその業績の偉大さを伝えなければなりません
之は一種の教育上の指針ともあり、^導教の念の具化一つ
つある今日の子孫への教訓として後世に残し度いと
思ふものであります。

新事業の遂行力の程切に御願ひ申し上げます。